

# 吉

祥寺北町3丁目の住  
宅地の一角に、深い樹

木にとけ込むように1軒の西洋住宅が建っているのをご存知ですか。「濱家住宅西洋館」と呼ばれるこの建物は、大正末期に成蹊学園がアメリカで製造されたツーバイフォー規格の建材を輸入し建てたプレファブ住宅です。この建物の計画中には、関東大震災が起きており、成蹊学園では地震に強い住宅としてこのツーバイフォー構法の建物を建築したとも推測されます。

建築当時は学生寮「有定寮」として使われていましたが、昭和7年に濱徳太郎さんが購入。徳太郎さんは日本クラシックカークラブの会長を務めるなど美しいモノをこよなく愛した人物。工業デザイナーである息子の濱素紀さんに受け継がれた後も、住宅として使われ続けてきました。

濱さんご一家がこの住宅

## TOPICS 02



所在地：武蔵野市吉祥寺北町3-8-24  
構造規模：木造2階建  
寄棟造・石綿スレート葺き、一部亜鉛鉄板葺き  
建築特徴：アメリカから輸入の枠組壁構法プレファブ住宅  
建築年代：大正後期  
建築面積：140.71㎡  
延床面積：207.33㎡  
(1階:121.10㎡、2階:86.23㎡)

## 大正末期の西洋住宅が 国の登録有形文化財に認定

オリジナルの意匠や部品を残し

19世紀時代の米国住宅の趣を今に伝える

を大切にされてきたこともあり、基礎や土台、骨組み、外壁、建具など建物の重要な部分にはオリジナルのデザインや部材がそのまま残っています。建物の放つ雰囲気はどこか威風堂々としています。

9月10日、濱家住宅西洋館は国の登録有形文化財に登録されました。武蔵野市内では初めての登録となります。19世紀のアメリカ、そして大正期の文化の薫りを伝える濱家住宅西洋館は武蔵野市民にとっても大切な財産と言えるでしょう。



### 「芸術家たちが好む家です」 濱素紀さん

父が昭和7年に購入し、私自身も大学卒業までこの家で育ちました。この建物の特徴はポーチですね。玄関の前にベランダのようなくつろげる空間があるのはアメリカ特有です。よく、ファッション誌に取材場所として提供しました。今は貸していますが、感性に響くのか、借り手は画家や彫刻家など芸術家が多いですね。



登録有形文化財への登録を証明するプレート。今後は玄関に飾られる予定